

阪神・淡路大震災22年 児童・生徒、教職員

追悼の夕べ

1月17日、兵教組はフッセホールで「追悼の夕べ」を開催した。ご遺族や教育行政関係者、教職員等250人が参加し、志半ばで無念にも亡くなつた児童・生徒、教職員の方々に思いをはせ、震災を語り継ぎ、その教訓を生かす教育改革を推進する決意を新たにした。(兵教組ホームページに動画を掲載予定)

高井芳朗教育長

今日の復興は、多くの犠牲の上にあることを決して忘れてはならない。県教委を代表し、犠牲になられた方々の御靈に改めて深く哀悼の意を表す。私たちは、壊滅的な被害を受けたあの日以降、県内の教職員のみなさまと教育の創造的復興を実現してきた。その中で、震災から学んだ教訓を語り継ぎ、防災教育を推進することも、兵庫型体験教育を県民の参

画と協働により展開してきた。近年、震災を経験している世代が増えるとともに、震災の記憶の風化が指摘されている。しかしながら教育の世界では、学校での防災訓練や教職員による語り継ぎがおこなわれ、被災地では追悼行事が開催されるなど、しっかりと学校文化として根付いている。県教委では昨年、宮城県内において、被災地の復興に学ぶ観点から、120人の新規採用教員や、将来の地域防災リーダーとなる中高生34人によるボランティア活動等にとりくんでいた。また、昨年の熊本地震だと考えてる。

震災を受け入れるまで10年

大学生の時は地方の大学に通つた。兵庫出身だと言ふと、震災のことを多くの人に尋ねられた。しかし自分の体験をありのままに話すことができなかつた。当時はまだ震災を受け入れることができないなかつたのだと思う。

私がようやく受け入れることができたのは、ちょうど10年経つた2005年1月17日だ。大学4年だった私は、自分がよく受け入れる



追悼の思いが込められた歌を合唱してくれた神戸市立桂木小学校合唱団のみなさん



発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合
代表者 泉川原芳郎和
編集人 電話 050(3538)2346
1部15円 年定額360円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2017/2/1

No. 1922

2面

・交設で生活する子どもたち支援実践



泉雄一郎執行委員長

1・17への思い
(抜粋)

阪神・淡路大震災で志半ばにして犠牲になられたみなさんのご冥福を心からお祈りするとともに、最愛の家族を失い、苦難の22年を生き抜いてこられたご遺族の皆様に改めて心からのお見舞いを申し上げる。私たちのこの一年間のとりみをご報告し、御靈にささげたい。

4月に熊本県を中心とする大規模な地震が発生した。阪神・淡路大震災の被災直後、熊本県教組と高教組の献身的な活動に応えようと、見舞金計100万円をお渡しし、「阪神・淡路

阪神・淡路大震災の教訓を日々の教育実践に生かす

とりくみについては、11月に開催した県教研の「生き

る力を育む教育分科会で、実践報告と討議がおこなわ

れた。

兵教組並びに兵庫県学校厚生会は子どもたちに生きる力をはぐくむ教育実践の深化・発展、教職員や

子どもたちの支援に、引き続き努力することをお誓い

申上げる。

兵教組並びに兵庫県学校厚生会は子どもたちに生きる力をはぐくむ教育実践の深化・発展、教職員や

子どもたちの支援に、引き

続き努力することをお誓い

申上げる。

兵教組並びに兵庫県学校厚生会は子どもたちに生きる力をはぐくむ教育実践の深化・発展、教職員や

子どもたちの支援に、引き

